

民法 I

科目ナンバリング CIL-201
選択 2単位

李 采雨

1. 授業の概要(ねらい)

私たちは、社会生活を営みながら、意識しないうちに法律関係を結んでいる。具体的には、バスや電車に乗る、コンビニで飲み物を買う、友達とランチを食べる、治療のために病院に行く、などである。さらに、ある程度法律効果を意識しながら、賃貸借契約や売買契約を締結する場合もある。しかし、すべての契約が予想のとおりに進むわけではない。民法の知識は、不意打ち的な状況に遭った場合に、自分の権利を守る手段となる。したがって、本講義では、コモンセンスとしての民法を学ぶことを目的とする。

2. 授業の到達目標

- ①それぞれの民法の条文を吟味しながら、全体としての民法を学ぶこと。
- ②社会生活を営むための「一般常識としての民法」を学び、理解してもらうことを到達目標とする。

3. 成績評価の方法および基準

- ①定期試験:70%、リフレクションシート:30%として、評価する。
- ②出席率が60%に達しない場合、評価を行わない。

4. 教科書・参考文献

教科書

出雲孝=梶谷康久ほか 『ストーリーから学ぶ民法ナビ』 みらい

参考文献

道垣内弘人 『リーガルベシス民法入門〔第3版〕』 日本経済新聞出版社

5. 準備学修の内容

本講義を理解するために、予習は不可欠である。講義の終了時には次回の範囲を告知するので、予習の上で講義に臨むのが望ましい。また、法律用語は一般用語とは異なり、重要な意味合いを内包しているので、学習の際には『法律用語辞典〔第4版〕』（有斐閣、2012年）、『法律学小辞典〔第5版〕』（有斐閣・2016）などを参照し、正確な意味を把握すること。

6. その他履修上の注意事項

上記の教科書は必携ではなく、参考書として扱うので、自分に合う体系書および教科書を持参してもかまわない。そして、講義中、条文を参照する機会が多いので、できる限り、最新の六法を必携すること。スマートフォンやノートパソコンのような電子媒体も認めるが、通覧性の観点から紙媒体をすすめる。また、学習とは無関係な電子機器の操作や私語は厳禁である。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス:民法とは何か
- 【第2回】 契約の成立:契約の仕組み
- 【第3回】 契約の履行:契約はなぜ守らなければならないか
- 【第4回】 債務不履行:①いったん契約が結ばれたら
- 【第5回】 債務不履行:②履行の強制
- 【第6回】 意思表示:①意思表示が法的に効力を持つためには
- 【第7回】 意思表示:②心裡留保・虚偽表示
- 【第8回】 意思表示:③錯誤、④詐欺と強迫
- 【第9回】 代理(行為主体と帰属主体の分化)
- 【第10回】 自然人と法人:民法という舞台に登場できる資格
- 【第11回】 民法にいう「物」の概念と所有権
- 【第12回】 物に対する権利の変動:①不動産
- 【第13回】 物に対する権利の変動:②動産
- 【第14回】 他人の土地が使える権利
- 【第15回】 理解度の確認(試験と質疑)